

磐田市 自治会連合会だより

磐田市の未来のために

回覧

vol.33



中学生の部

竜洋中 1 年
おおば このみ
大庭 好さん



小学校高学年の部

富士見小 5 年
ひらの りな
平野 利奈さん



小学校低学年の部

豊岡南小 3 年
なぐら まい
名倉 真衣さん

「交通安全」最優秀賞
あなただけの命
大切にしよう！



中学生の部

城山中 2 年
みずかみ わく
水上 和郁さん



小学校高学年の部

豊田北部小 6 年
うの めい
宇野 萌倭さん



小学校低学年の部

東部小 3 年
ひだ あやり
肥田 彩里さん

「防犯」最優秀賞
オレオレ詐欺は
許さんぞ！



「交通安全」と「防犯」啓発ポスターコンクールを実施しました。この事業は、子どもたちに地域に関心を持ってもらうとともに、自治会連合会の活動を広く周知するため、平成18年度から毎回テーマを変えて実施しています。今回は、793点の応募があり、最優秀賞には6点の作品が選ばれました。「交通安全」部門・中学生の部で最優秀賞を受賞した大庭好(おおばこのみ)さんは「こんな大きな賞を受賞したのは初めてだったので驚きました」と話していました。

入賞作品については、自治会回覧板のデザインに採用されます。

小中学生ポスターコンクール 今年度もステキな作品ぞくぞく

自治会連合会役員 東北視察研修 (自治会連合会 総務部長 島岡信生)

平成30年8月1・2日に、自治会連合会役員32名が、東日本大震災の経験を基にした地域防災の取り組みを学びに、宮城県へ視察研修に行きました。

仙台市の南材地区町内会連合会では、東日本大震災の体験談を伺いました。被災後、停電によりマンション住民が南材木町小学校に約1000人押し寄せたそうですが、避難所の運営で大きな問題はなかったそうです。これは、「小学校を中心として、2日間の夏祭り、運動会等の地域活動が積極的に行われ、地域コミュニティが確立されていたから」とのことでした。

磐田市と比較すると、学校と地域の繋がりが強く、学校を拠点とした避難所運営においても、自らが主体だという意識が根付いているように感じました。

荒浜小学校や石巻市では、復興に向かっていて被災地を見学し、当時の体験談をそれぞれ関係者から伺い、改めて震災の恐ろしさを感じるとともに、防災は常日頃からの高い危機管理意識と訓練が大切だと感じました。

磐田市も法律や財政面の課題を抱えながら高さ14mの防潮堤の整備を進めています。これが完成しても防災に「絶対という特効薬」はありません。どうしても「想定外」がついてきます。だから被災地は防潮堤や避難タワーの整備、道路のかさ上げ、防災意識の啓発など、様々な選択肢を整備しているのだと感じました。

そして何より一番重要なことは、地域のコミュニティ力であり、その構築は防災に関わらず、日頃の

地域活動によるものであることを再確認しました。自治会連合会の藤原孝一南御厨地区長が今回の視察で学んだことをパワーポイントにまとめ、それぞれの地域で地区長が紹介をしたり、地域づくり協議会が主催する宿泊体験訓練などにも今回の学びが生かされたりしました。

東日本大震災から8年が経過しようとしています。今一度、当時を思い出してみてください。今、自分たちに何ができるのか、何を準備しておけばいいのか、自分の周りの人たちと話をしてみてください。

そして、いつ来るかわからない大震災に備え、一日一日を大切に生き、未来の地域のために、アクションを起こしましょう。

子どもや孫の世代のために、今という時を共に生きている私たち大人が一丸となり、地域みんなで素晴らしい環境をつくっていきましょう。



- ① 南材地区町内会連合会からの学び (南材木町小学校)
- ② 震災遺構「荒浜小学校」校舎内の時計は津波到達時間のまま。
- ③ 荒浜小学校校舎。2階まで津波が押し寄せた。
- ④ 荒浜小学校校舎1階
- ⑤ 石巻震災ボランティアから案内を受ける
- ⑥ がんばろう!石巻 看板
- ⑦ 地区長作成パワーポイント



地域×災害×心構え

平成30年9月30日から10月1日に最接近した台風24号の影響で、磐田市を含む県西部で大規模な停電が発生し、私たちの生活に大きな影響が出ました。

台風や地震などの自然災害は、私たちの力で食い止めることはできません。しかし、災害による被害は、日頃の備えによって減らすことができます。

停電により簡易水道が断水した長野地区の自治会では、急遽数か所ある仮設の井戸に手動ポンプを取り付け、生活用水を確保しました。手動ポンプは連続して漕ぎ続けると水位が下がり、その都度呼び水を入れなければならないといけません。大人たちが必死に漕ぎ続ける様を見ていた長野小学校・南部中学校の児童・生徒が自分たちから申し出て、夕方暗くなるまで手動ポンプを漕ぎ続け、円滑な給水作業が実施されました。

長野地域づくり協議会の防災部長は、「これぞ共助の見本。困ったときこそその地域力。今回の対応は、子どもたちが常日頃の防災訓練や地域の交流にも

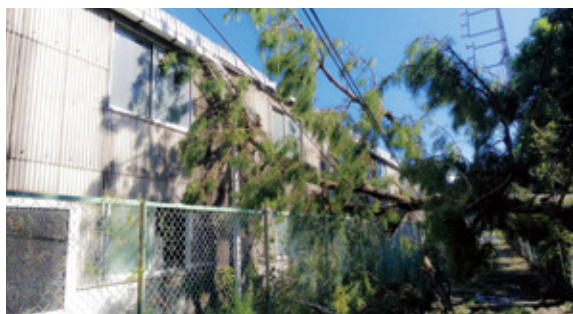
積極的に参加してくれているからできたこと。大人と子どもが一緒にになって、地域力をもっと高めることができれば非常に心強い」と話をしてくれました。

豊田地区の七蔵新田自治会では、10月1日の早朝から自治会役員が公会堂に集い、50食分の炊き出しを行って、希望者や独居高齢者に配りました。また断水しているお宅には、水入りのポリタンクを配布しました。

七蔵新田自治会長は、「困ったときはお互い様。これから地域のみんなで、支えあっていきたい」と話をしてくれました。

いざという時に、自分を守るため、家族を守るため、地域を守るために、自分たちができることを実践できる「人を育てる」ことは、とても重要です。

私たち大人の背中を見て育つ子どもたちと真剣に向き合いながら、より良い地域をつくり、災害に備えましょう。



▲ 台風24号の爪痕

地域×宿泊体験訓練

今年度から、災害時の避難生活を想定した宿泊体験訓練が、地域づくり協議会主催のもと開催されました。

自助としての備えや、避難生活を送るための心構えなど、今後の個人や地域の減災対策に繋げるために、それぞれの地域づくり協議会が知恵を出し合い様々な取り組みを行いました。

昨年8月末に宿泊体験訓練が開催された岩田交流センターでは、小学校6年生と中学校1年生、自治会長や地域住民ら約60人が集い、炊き出し訓練や、ダンボールトイレ・空き缶を使ったオイルランプの作製を行いました。また、ダンボールを体育館に敷いて実際に寝たり、車中泊を体験したりしました。

参加者からは、「避難時に出るゴミが、避難所生活を送る中で再利用できることを知った」「ダンボールを1枚敷いただけでは、なかなか眠れなかった」「災害に備えて色々準備が必要だと気付いた」など、感想が聞かれました。



▲ 体育館の中でダンボールを敷いて寝る中学生

地域×防災×外国人

磐田市内には、外国人住民が約7800人（市内人口の4.5%）住んでいます。

少子高齢化、人口減少が進む社会の中で、外国人住民は増えており、「いざ」という時は国籍問わず、みんなで助け合って生活することが求められます。

昨年12月の地域防災訓練の日には、豊田北部小学校で、外国人技能実習生が地元消防団と一緒に放水訓練を行いました。

また、磐田南小学校では、自治会毎に参集する際の目印のプレートに、ローマ字で自治会名を併記し、地域に住む住民誰もが安心して生活していくための工夫が見られました。

今後益々増加していく外国人住民と、地域が共に成長していくために、「防災」の視点から自治会が一丸となって繋がっていくのも一つの手段ではないでしょうか。



ローマ字併記のプレート ▲



▲ 地元消防団と一緒に放水訓練をする外国人技能実習生

実践しよう！個人でできる災害への備え

①「いわたホットとライン」に登録する

停電時、同報無線は非常電源を使用して放送されるため、放送回数が限られます。同報無線以外の情報入手手段として「いわたホットとライン」に登録しておきましょう。

★いわたホットとラインのメリット

- ① 情報を随時入手
停電情報、台風への注意喚起、避難所の開設など、情報を随時入手可能
- ② 情報が文字で分かる
テレビ、ラジオと違い、情報が文字で残るため、必要なときに読み返すことが可能
- ③ 同報無線の放送内容がすぐ分かる
同報無線の放送内容が文字情報としてメール配信される

★いわたホットとラインの登録方法

左記のアドレスに空メールを送信（件名、本文なし）し、送られてくるメールの案内に従って登録をする。二次元バーコードが読み取り可能な携帯電話をお使いの方は、二次元バーコードから登録可能です。

※登録が難しい場合は、磐田市役所情報政策課又は各支所にて登録のお手伝いをします。



いわたホットとラインの登録はこちらから

entry@hotline.city.iwata.shizuoka.jp

こちらからも登録できます>



②水や食料は、7日分を備える

災害の復旧には時間がかかる場合があります。そこで、左記のポイントに従って、準備しておきましょう。

★備蓄のポイント

- ① 家族人数×7日分
人は生きていくために1日2〜3ℓの水が必要です。一週間分ともなると、一人14〜21ℓ水を用意しておく必要があります。2ℓ×6本入りの水がケースで売られているので、そういったものを上手に活用するようにしましょう。
携帯電話の電池切れに備え、モバイルバッテリーも用意しておくとう安心です。
- ② 非常食や缶詰の活用
平日頃の食事に缶詰などを組み合わせ味のバリエーションを広げておくと、いざというときにも役立ちます。
- ③ 食べたら買い足す「ローリングストック方式」
日頃から非常食や缶詰などを食事に使うことで、賞味期限切れを気にすることなく、備蓄することができます。

平成31年2月15日発行
発行：磐田市自治会連合会
編集：磐田市自治会連合会 総務部会

連絡先
磐田市自治会連合会事務局
〈地域づくり応援課〉
TEL (0538) 37-4811
<http://www.iwatashi-jichikai.jp>